

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
単元株式数 100株
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日（中間配当を実施する場合）

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（郵便物送付先） 〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（電話照会先）（住所変更等用紙のご請求） ☎0120-175-417

（その他のご照会） ☎0120-176-417

（インターネットホームページURL） <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。

URL <http://www.mars-eng.co.jp/kessan/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、
日本経済新聞に掲載します。

上場取引所 東京証券取引所

株主様ご優待のご案内

3月31日現在、100株以上保有の株主様に下記のご優待をご用意しております。
同封のカタログ「めぐり旅」より好きなものをお選びいただけます。詳細につきましては、カタログをご覧ください。

●100株以上
3,000円相当の地方特産品
(カタログより選択)



●500株以上
5,000円相当の地方特産品
(カタログより選択)



●同封の専用ハガキにてお申込みください。

お申込み締切日 平成20年8月29日（当日消印有効）

●株主ご優待に関するお問い合わせ先（6月27日より開設）
株主様優待事務局 TEL：0120-156-533



株式会社 マースエンジニアリング

〒160-8420 東京都新宿区新宿1-10-7

TEL. 03-3352-8555 (代)

URL： <http://www.mars-eng.co.jp>

[マースジャーナル]

第34期 年次報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで



MARS Journal

株式会社 マースエンジニアリング

マースは、業界に 新しい遊技・経営スタイルを提案します。



代表取締役社長 松波 明宏

株主の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。当社の事業活動につきましては平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第34期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）における営業のご報告にあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期におけるパチンコ業界は、射幸性を抑えた新基準のパチスロ機への完全移行に伴い、遊技機の入替を最優先に行いましたが、パチンコホールの収益性は低下する傾向にあります。

更に、期初に大型ホールが倒産した余波で、金融機関からの融資を受け難い状況が続き、困窮するパチンコホールの倒産、廃業が相次ぎ、全国のパチンコホール軒数は大幅に減少するなど業界環境は非常に厳しい状況が続きました。

周辺設備への投資が見送られる状況の下で、当社グループは、直販体制で顧客ニーズを取り入れた製品の開発に注力してまいりました。その最たる製品であるパーソナルPCシステムは、ホール収益の改善や深刻化する人材難の解消に貢献できるシステムとして開発、販売を行ってきた結果、業界最大手のホールを始め、全国有数のホールに導入が進み、100店舗突破も目前となりました。高い評価で導入が加速化する同システムに、2月に島工事不要の短期間、低価格で導入できる「パーソナルPCシステムⅡ」も新たに発売したことから、次期には200店舗の導入も見込んでおります。

また、当社グループはパチンコ業界で培ってきた技術、ノウハウ、実績を背景に、RFID事業を次の経営の柱に確立すべく、異業種への販売を積極的に展開し、少しずつ実績を積み重ねてまいりました。更なる経営戦略として、昭和情報機器㈱との業務資本提携を行い、相乗効果を図りつつ、グループ企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には、今後とも格段のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当連結会計年度の業績

当連結会計年度の業績は、売上高260億16百万円（前期比2.1%減）、営業利益は51億88百万円（同2.2%減）、経常利益は53億81百万円（同0.6%減）、当期純利益は31億64百万円（同6.2%増）となりました。

[アミューズメント関連事業部門]

アミューズメント関連事業部門は、トータルサプライヤーとしての地位を確立すべく、開発・製造・販売・アフターサービスに至るまで一貫体制で、全国主要都市に配置しているサービスステーションおよびサポートセンターを通じ、顧客満足を満たす製品作りを目指しています。

プリペイドカードシステムであるサイクルカードシステム部門では、今年2月に従来のシステムよりも低価格で島設備の工事が不要な『パーソナルPCシステムⅡ』を販売開始し、早くも導入実績を上げることができました。この結果、当連結会計年度において、パーソナルPCシステムの売上実績70店舗を含めたサイクルカードシステムの売上実績は180店舗、導入（実稼働）店舗数は年度末時点で累計1,812店舗（市場シェア17.6%）となり、当システムの個別売上高は97億87百万円となりました。

「景品管理のマース」として高いブランド力を誇る景品管理システム部門では、セキュリティや操作性が高い上位モデルの「mシリーズ」、標準モデルの「eシリーズ」の2タイプを販売し、市場シェアの拡大を図りました。この結果、当システムの個別売上高は32億4百万円となりました。

RFID事業では、主にセキュリティを強化した入退出管理システムやゲームセンター向けの認証システムを販売するとともに、健診センター向けシステム及びスマートフォン対応リーダライタ等の新製品を開発し、展示会に出展し、異業種への拡販に努めました。

この結果、RFIDの個別売上高は11億46百万円となりました。以上の結果、アミューズメント関連事業部門の売上高は254億

21百万円（同2.2%減）となりました。

[その他事業部門]

その他事業部門はホテル事業を行っており、立地の良さやサービスの高さが評価され、高稼働を維持することができました。この結果、その他事業部門の個別売上高は5億95百万円（同2.1%増）となりました。

次期の見通し

当社グループの主要販売先であるパチンコ業界は、新基準のパチスロ機への移行の影響で収益性が低下する傾向にある上、今年7月に行われる北海道洞爺湖サミットの開催に伴い、都道府県毎に最低30日間の遊技機入替の自粛期間を設けるため、周辺機器設備への投資需要が一時的に低下する可能性があるなど、経営環境は依然として厳しい状況が続くものと思われま。

このような状況の中で、当社グループは一貫体制による徹底した原価低減に努めて製品の競争力を向上させると同時に、競合他社との差別化を図るため、適宜、新製品の市場投入を推し進めてまいります。

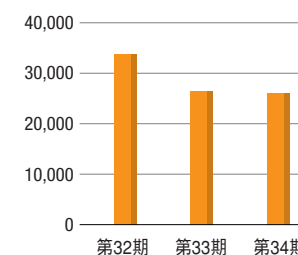
具体的には、低価格で島補給設備の工事が不要な新製品のパーソナルPCシステムⅡの積極的な販売を通じて遊技ファンに対しても玉積みをしないう遊技スタイルを浸透させる施策を図り、業界標準化を目指します。

また、空気で紙幣を運ぶ世界初の技術を採用した新製品「Air紙幣搬送システム」を次期より本格的に販売を開始し、島補給設備の市場シェア拡大を図ります。

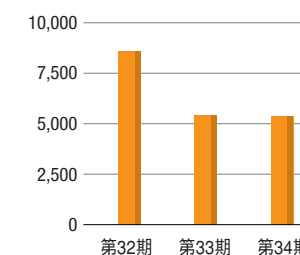
RFID分野は今後の市場拡大が見込まれています。グループ内でのハードウェア・ソフトウェア技術を結集して新規商材を開発し、新たな事業の柱へと成長させていくことを目指してまいります。

なお、次期の連結会計年度の業績は、売上高278億8百万円（前期比6.9%増）、営業利益53億21百万円（同2.6%増）、経常利益54億5百万円（同0.4%増）、当期純利益32億24百万円（同1.9%増）を見込んでおります。

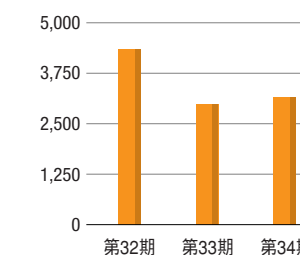
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



当期純利益(百万円)



更なる進化を遂げた PERSONAL II

島工事不要の最新パーソナルPCシステム

「パーソナルPCシステム」は、入金・遊技・計数の全てを座ったまま行える画期的なシステムとして全国各地のホールに次々と導入されています。その好評を博している「パーソナルPCシステム」に、更なる進化を遂げた待望の新システムが登場しました。その名は「パーソナルII」。従来の「パーソナルPCシステム」は大規模な島工事を要するため、導入は新規店や大規模改装時に限られていましたが、パーソナルIIは島工事が不要となるため、導入機会を選ばず、最新のシステムを低価格、短期間で導入することが可能となりました。

マースエンジニアリングは、お客様、スタッフ、ホールのそれぞれに多大なメリットをもたらす「パーソナルPCシステム」を通じて、次世代型の「遊技スタイル」と「ホール経営」を提唱し続けています。

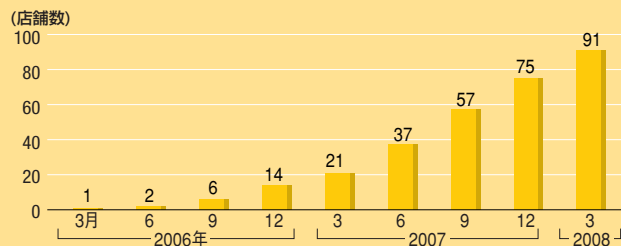


K1-PS(II)

大掛かりな工事が要らず、
 既存店にも簡単に設置
 できます。



●パーソナルPCシステムの売上店舗数（累計）

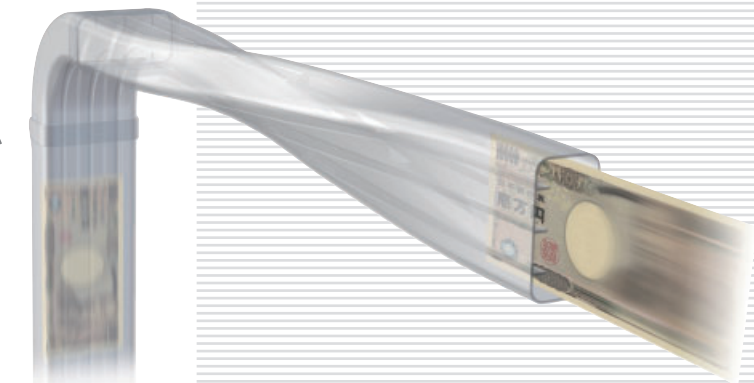


「パーソナルPCシステム」を導入すると、玉箱を運搬する必要がなくなるため、スタッフはお客様へのサービスに専念でき、また、ホールにとっては、最小限のスタッフでホール運営が可能となるほか、玉箱が通路から消えることにより緊急時の安全性確保も実現できます。ホール経営の合理化とお客様へのサービスの向上を実現する「パーソナルPCシステム」は全国に拡大中です。

空気力で紙幣を搬送 Air紙幣搬送システム

世界初の技術でホールの省力化に貢献

2008年2月、空気力で紙幣を運ぶ世界初の技術を採用した「Air紙幣搬送システム」を開発しました。これまでの機械式の紙幣搬送システムは、搬送経路が自由に設定できない、紙幣詰まりが多い、稼働部分が多く故障しやすいといった問題がありましたが、「Air紙幣搬送システム」はこれらの問題を全て解決しました。紙幣が通る搬送経路に筒を使用し、島設備の形状に合わせて自由にレイアウトすることが可能になったのをはじめ、稼働部分が少ないため、故障が少なくメンテナンスも容易であることなど優れた特長を有しています。紙幣は筒の中を通り、小型の搬送機にある金庫に急送、一元管理されるため、安全性の確保にも役立ちます。「Air紙幣搬送システム」はいよいよ2008年4月より本格的販売となります。



高額紙幣を安全に管理

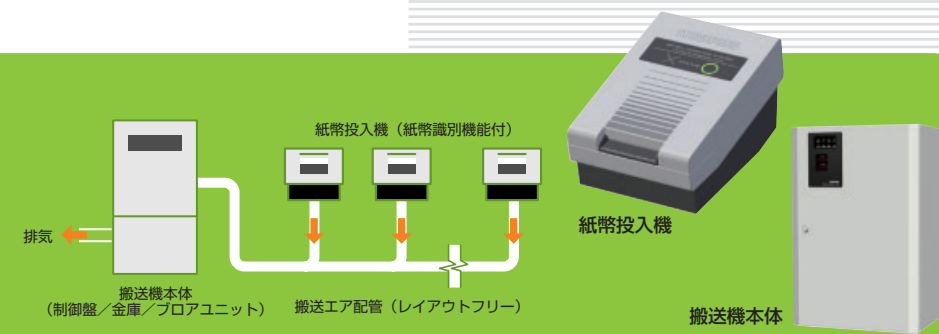
搬送経路が自由に
 レイアウト可能

稼働部が少ないため、
 故障が少ない

メンテナンスが容易

対応例

空気力で紙幣を運ぶ世界初の技術を採用した「Air紙幣搬送システム」は、2007年の自動認識展に参考出品し高い評価をいただきました。流通業界をはじめ、様々な業界での活躍が期待できます。



TOPICS **1**

新製品発表内覧会を全国各地で開催しました。

当社の新製品を発表する内覧会を、今年2月から3月にかけて、東京を皮切りに大阪、福岡、札幌で開催しました。

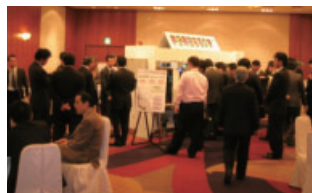
今回の最大の注目となる「PERSONAL II」は、島工事の問題で導入を見合わせていたお客様にも大きな後押しとなり、福岡県で1号店、愛知県で2号店、島根県で3号店がそれぞれオープンするなど、好評をいただく結果となりました。

また、「Air紙幣搬送システム」や「景品管理システム」にも大きな関心が集まったほか、特にoneA社製ランプとの連動によってこれまで以上の性能とコストパフォーマンスを実現した「ホールコンピュータ M7」にも熱い視線が注がれていました。

なお、本社ショールームでは、内覧会の内容をほぼそのままに、最新のラインナップを展示しております。



2月8日～13日 東京・本社ショールーム



2月26日 大阪・ヒルトン大阪



2月29日 福岡・ホテル日航福岡



3月12日 札幌・ホテルニューオータニ札幌

TOPICS **2**

昭和情報機器株式会社と業務・資本提携しました。

平成19年7月、当社は第三者割当増資によって昭和情報機器株式会社の株式を取得し、持分法適用の関連会社としました。

昭和情報機器は自社内に生産工場を持たず、製品企画および技術開発に特化したファブレス企業です。コア事業である漢字情報処理システムでは国内有数のシェアを確保していますが、年々販売競争が激化する市場環境に対応するため、業務改革の遂行と財務体質の強化が緊急の経営課題となっていました。一方、当社はアミューズメント業界で培ってきた技術力やノウハウを基盤として新規分野への参入を模索してきました。

今回の業務・資本提携はこうした両社のニーズが合致したもので、昭和情報機器は当社が保有する生産設備の利用を含めてコスト削減と業務の効率化に努めてまいります。また販売面においては、それぞれが得意とする販売チャネルを相互に活用することによって拡販体制の確立を推進し、早期のシナジー創出とグループ企業価値の向上を目指してまいります。

会社概要 (平成20年3月31日現在)

本社所在地 東京都港区南青山一丁目15番9号
 設立年月日 昭和48年1月24日
 資本金 27億4,467万3千円
 従業員数 377名(平成19年12月31日現在)
 会社の目的 高速漢字情報処理システム等の開発及び販売

MARS Action! [導入事例]

パーソナルPCシステムが全国各地に続々と導入されています。

[愛知県名古屋市] マドンナ中川店様

JR名古屋駅の南西に位置するマドンナ中川店様では、パーソナルPCシステムを10年にわたって導入いただいておりますが、店舗オープン20周年のリニューアルに合わせて名古屋地区初となる新システムの入れ替えをさせていただきました。

お客様の目線に立った接客サービス実践に力を入れている同店において、さらなる強力なサポートアイテムとして活躍しています。



マドンナ中川店様のコメント

10年間の導入実績でスタッフがパーソナルPCシステムを十分に理解しており、新システム導入がスムーズに行えました。

地元のお客様を中心に会員数が12,000名を超え、さらに満足していただけるよう快適な空間作りに努めてまいります。

[長崎県西彼杵郡] まるみつ長与店様

九州地区に20店舗以上を展開しているひぐちグループ様。地元ファンに愛され、基幹事業のパチンコ事業が今年で50年を迎える同グループで、初めてパーソナルPCシステムが採用されました。

同システム導入のまるみつ長与店様ではプランケットの貸出サービスやワゴンサービスなど、きめ細かいサービスを提供。接客サービスを重要視する同店の環境作りに一役買っています。



まるみつ長与店様のコメント

パーソナルPCシステムの採用で、玉積み・玉運び業務がなくなったので、お客様のおもてなしに専念することができるようになりました。

お客様に「憩いと安らぎ」を提供し、ご満足いただける店作りに手応えを感じています。

1 株式会社マースコーポレーション

マースエンジニアリングが現在の本社ビルを竣工した平成8年に、グループ企業のリース取引及び損害保険代理店業務を一手に引き受ける目的で設立されました。

具体的には、パチンコホール様向けの当社製品をリース販売する際などの窓口としての役割を担うほか、近年では、マースグループの不動産の賃貸借管理を行うなど事業を拡大しています。

マースコーポレーションの2つの事業



会社概要 (平成20年3月31日現在)

商号 株式会社マースコーポレーション
本社所在地 東京都府中市栄町三丁目1番地の1
設立年月日 平成8年12月13日
資本金 20億円

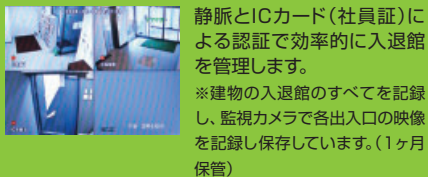
新会社設立! 7 株式会社マースネットワークス

当社グループにおいて、最も先端性があり今後もさらなるニーズが高まる技術の開発を行ってきた株式会社マーステクノサイエンスの「データ管理業務部門」を平成20年4月に新たに分割して「株式会社マースネットワークス」として誕生しました。

具体的な業務内容として、カードシステムの第三者管理、情報処理機器の企画及び販売、情報処理サービスの提供、コンテンツ配信事業を行い、インターネットを駆使した事業の拡大にも注力してまいります。

会社概要 (平成20年4月1日現在)

商号 株式会社マースネットワークス
本社所在地 東京都新宿区新宿一丁目10番7号
設立年月日 平成20年4月1日
資本金 1億円



静脈とICカード(社員証)による認証で効率的に入退館を管理します。
※建物の入退館のすべてを記録し、監視カメラで各出入口の映像を記録し保存しています。(1ヶ月保管)



サーバーは、ハード・ソフトを二重化、万一の故障時にも瞬時に切り替わり、ダウンしない構成となっています。また、死活監視サービスにより24時間365日の監視、通知を行っています。

2 株式会社マーステクノサイエンス

RFID(非接触データキャリア)事業、ICカードの販売、情報処理サービスの提供、関連ソフトの開発。

3 株式会社ウインテック

電子機器及び情報機器の設計・製造・販売、並びにメカトロニクス関連の技術指導。自社開発製品は、紙幣識別機、カードリーダー、自動販売機、カードプリンタなど。

4 株式会社ホテルサンルート博多

株式会社マースエンジニアリングの社有地を有効活用して福岡市の市街地に設立された「ホテルサンルート博多」の運営管理及び関連事業を行うアセットマネジメント事業。

5 株式会社マースラインテック

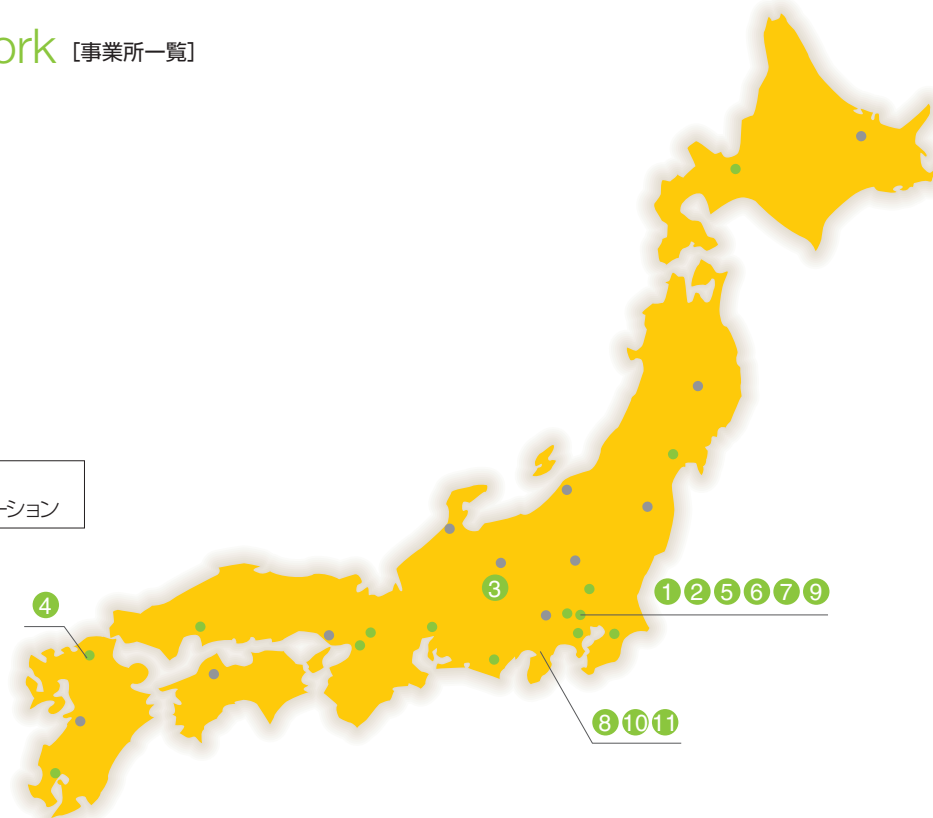
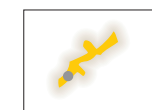
パチンコ島補給装置の企画、設計及び製造。

6 株式会社マースフロンティア

コンピュータ関連用品、電子機器等の企画及び販売。

MARS Network [事業所一覧]

● …営業所
● …サービスステーション



本社
東京都新宿区新宿1-10-7

札幌営業所
札幌市白石区南郷通8丁目北2-25 第3タチカビル

仙台営業所
仙台市青葉区大町1-3-7 横山ビル

大宮営業所
さいたま市中央区新中里5-11-6

千葉営業所
千葉市稲毛区小仲台2-3-12 こみなと稲毛ビル

東京営業所
東京都新宿区新宿1-11-16 サンサーラ第五御苑ビル

西東京営業所
府中市栄町3-1-1

横浜営業所
横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPウエストタワー

静岡営業所
静岡市葵区黒金町59-7 ニッセイ静岡駅前ビル

名古屋営業所
名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル

京都営業所
京都市中京区烏丸通御池下ル 虎屋町577-2 太陽生命御池ビル

大阪営業所
大阪市西区新町1-13-3 四ツ橋SIビル

広島営業所
広島市中区大手町2-8-5 野村不動産大手町ビル

福岡営業所
福岡市博多区博多駅東3-11-28 博多サンシティビルII

鹿児島営業所
鹿児島市西千石町17-3 太陽生命鹿児島第二ビル

北見サービスステーション
北見市高米東町1-11-37

盛岡サービスステーション
盛岡市津志田町3-2-3

郡山サービスステーション
郡山市桑野2-2-16 藤尾ビル

高崎サービスステーション
高崎市新保町41 クローバービル

甲府サービスステーション
甲府市飯田1-1-24 OSD-Ⅲビル

長野サービスステーション
長野市西尾張部1089-10

新潟サービスステーション
新潟市出来島1-2-12 DNIビル

金沢サービスステーション
金沢市靉月5-181

兵庫サービスステーション
神戸市中央区東川崎町1-3-3

松山サービスステーション
松山市空港通1-3-16 土居田OKビル

熊本サービスステーション
熊本市水前寺1-20-22 水前寺センタービル

沖縄サービスステーション
浦添市伊祖3-4-12

裾野技術センター
裾野市伊豆島田818-8

R&Dセンター
東京都新宿区新宿1-2-7 あいおい損保・新宿共同ビル

東富士工場
御殿場市柴怒田961-45

テクノ流通センター
御殿場市東田中2-22-25

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当連結 会計年度末 平成20年 3月31日現在	前連結 会計年度末 平成19年 3月31日現在
資産の部		
流動資産	27,407,609	30,241,245
固定資産	15,207,920	13,833,921
有形固定資産	9,773,057	9,870,875
無形固定資産	108,382	139,155
投資その他の資産	5,326,480	3,823,890
資産合計	42,615,530	44,075,166
負債の部		
流動負債	8,112,100	8,427,178
固定負債	2,645,002	2,721,414
負債合計	10,757,102	11,148,593
純資産の部		
株主資本	32,044,699	32,528,095
評価・換算差額等	△466,805	98,699
少数株主持分	280,534	299,778
純資産合計	31,858,427	32,926,573
負債純資産合計	42,615,530	44,075,166

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当連結 会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前連結 会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	26,016,688	26,564,327
売上原価	13,689,804	14,573,727
売上総利益	12,326,884	11,990,600
販売費及び一般管理費	7,137,979	6,685,065
営業利益	5,188,904	5,305,535
営業外収益	204,695	114,832
営業外費用	12,014	8,643
経常利益	5,381,586	5,411,724
特別利益	127,533	—
特別損失	110,861	129,615
税金等調整前当期純利益	5,398,257	5,282,109
法人税、住民税及び事業税	2,104,721	2,212,924
法人税等調整額	148,010	△13,494
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△18,523	102,402
当期純利益	3,164,048	2,980,277

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当連結 会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	前連結 会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,842,225	3,173,551
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,645,289	△3,307,277
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,847,068	△3,271,910
IV 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△1,650,132	△3,405,637
V 現金及び現金同等物の期首残高	11,674,303	15,079,940
VI 現金及び現金同等物の期末残高	10,024,171	11,674,303

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	22,653,593	△6,431,428	32,528,095
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△817,863		△817,863
当期純利益			3,164,048		3,164,048
自己株式の取得				△2,829,581	△2,829,581
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,346,185	△2,829,581	△483,396
平成20年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	24,999,779	△9,261,010	32,044,699

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益 (注)	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	98,699	—	98,699	299,778	32,926,573
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△817,863
当期純利益					3,164,048
自己株式の取得					△2,829,581
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額(純額)	△566,685	1,181	△565,504	△19,244	△584,749
連結会計年度中の変動額合計	△566,685	1,181	△565,504	△19,244	△1,068,145
平成20年3月31日 残高	△467,986	1,181	△466,805	280,534	31,858,427

(注) 繰延ヘッジ損益は、関係会社である昭和情報機器株式会社に対し、持分法を適用した結果、発生した項目であります。

Non-consolidated Financial Statements [単体財務諸表]

単体貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科目	当事業年度末	前事業年度末
	平成20年 3月31日現在	平成19年 3月31日現在
資産の部		
流動資産	14,847,073	18,340,349
固定資産	14,681,077	13,476,122
有形固定資産	4,264,985	4,462,150
無形固定資産	91,823	147,303
投資その他の資産	10,324,269	8,866,668
資産合計	29,528,150	31,816,472
負債の部		
流動負債	2,877,275	3,355,534
固定負債	777,733	726,111
負債合計	3,655,008	4,081,645
純資産の部		
株主資本	26,229,047	27,599,167
評価・換算差額等	△355,904	135,659
純資産合計	25,873,142	27,734,826
負債純資産合計	29,528,150	31,816,472

単体損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科目	当事業年度	前事業年度
	(平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	(平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	18,655,409	19,416,006
売上原価	10,350,442	11,002,426
売上総利益	8,304,966	8,413,580
販売費及び一般管理費	6,301,810	6,098,511
営業利益	2,003,155	2,315,069
営業外収益	1,111,626	277,756
営業外費用	10,470	4,271
経常利益	3,104,311	2,588,554
特別利益	132,746	—
特別損失	7,872	129,340
税引前当期純利益	3,229,185	2,459,213
法人税、住民税及び事業税	837,195	1,002,889
法人税等調整額	114,664	△30,726
当期純利益	2,277,325	1,487,050

単体株主資本等変動計算書 (要旨)

当事業年度 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	利益剰余金		利益剰余金 合計		
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益剰余金			
平成19年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	8,371,830	372,109	4,600,000	12,752,556	17,724,665	△6,431,428	27,599,167
事業年度中の変動額									
剰余金の配当						△817,863	△817,863		△817,863
当期純利益						2,277,325	2,277,325		2,277,325
自己株式の取得								△2,829,581	△2,829,581
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)									
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	1,459,461	1,459,461	△2,829,581	△1,370,119
平成20年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	8,371,830	372,109	4,600,000	14,212,017	19,184,127	△9,261,010	26,229,047

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日 残高	135,659	135,659	27,734,826
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△817,863
当期純利益			2,277,325
自己株式の取得			△2,829,581
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	△491,564	△491,564	△491,564
事業年度中の変動額合計	△491,564	△491,564	△1,861,684
平成20年3月31日 残高	△355,904	△355,904	25,873,142

当社ホームページのご案内

当社ホームページにて、決算短信などの財務情報のほか、各種IR資料、株式情報、株主優待のご案内なども掲載しています。
どうぞお気軽にアクセスしてみてください。

URL: <http://www.mars-eng.co.jp>

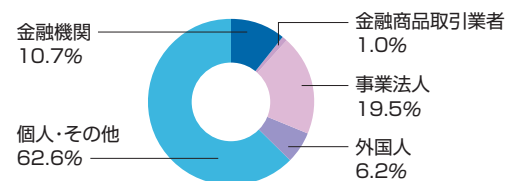
株式の状況

発行可能株式総数	6,762万株
発行済株式の総数	2,272万株
株主数	7,245名

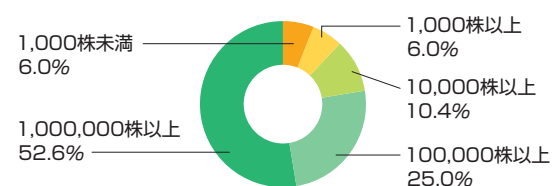
大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(株)イー・エムプランニング	4,251	23.05
松波廣和	1,404	7.62
松波香代子	1,028	5.57
松波明宏	1,000	5.42
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	618	3.35
みずほ信託 退職給付信託 東京都民銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	600	3.25
古宮重雄	490	2.66
五味輝雄	450	2.44
永井美香	432	2.34
大矢俊寿	388	2.10

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



会社概要

商号	株式会社マースエンジニアリング (Mars Engineering Corporation)
本社所在地	東京都新宿区新宿一丁目10番7号
設立年月日	昭和49年9月13日
会社の目的	1. 各種電子機器の設計・試作並びに製造販売 2. ソフトウェアの開発 3. 電子機器の開発、企画並びに販売 4. ホテルの経営 5. 不動産の賃貸業 6. 建築工事の企画、設計並びにコンサルティング業務 7. 損害保険代理店業 8. 前各号に付帯する一切の業務
資本金	7,934,100,000円
就業者数	482名(男440名、女42名)

役員 (平成20年6月27日現在)

代表取締役会長	古宮重雄
代表取締役社長	松波明宏
取締役副社長	五味輝雄
取締役相談役	松波廣和
取締役	大矢俊寿
取締役	村上浩
常勤監査役	佐藤忠義
監査役	竹俣耕一
監査役	小林郁夫

執行役員 (平成20年6月27日現在)

営業本部長兼近畿営業部長	秋山裕和
ラインテック営業部長	杉内雄二
R&Dセンター長	佐野邦明
技術開発部長	井出平三郎
製造部長	渡邊廣美
管理本部長兼経理部長	佐藤敏昭
品質保証部長	名取満郎

MARS History 4 (全10回)

パチンコ專業へ舵を取れ

「技術力」のマース、
受託業務に有終の美を飾る。

会社を立ち上げてから10年を迎えようとしている頃、パチンコ関連業務への受注が急増してはいましたが、創業からの製品開発受託業務も技術者魂とともに健在でした。

1983(昭和58)年には銀行向けヘカード振込機を開発しました。当時の銀行振込はすべて行員が取り扱っており、自動振込機への開発が囑望されていました。キャッシュカードを読み取り、振込先をメニューに従って入力し、預金口座から引き落とすという現在のATMによる振込機能と全く同様の当社の振込機は、時代を先取りしていると高い評価を受けました。

また、新宿に本社を置くアミューズメント関連企業へ複数の業種のオンラインシステムとして、MC800コンセントレートコンピュータを納入しました。これは後にパチンコホールの各店舗のデータ集信を目的とした全自動集信装置「MS-9」の開発につながる画期的なシステムでした。

その2年後に受託した磁気ディスク製造装置の主要制御部をマイコンで制御するディスク製造ロボットは、日



玉箱の底が抜ける画期的な玉計数機C-10と底抜型玉箱

経産業新聞主催の産業機械賞に輝くなど、技術力はますます進化を遂げていきます。

しかし、こうした量産できない製品開発は、単なる技術の切り売りであり、下請の域を出ない仕事に見切りをつける必要がありました。

同年、東京ニュース通信社向けに新型受信端末「ラジ・テレシステム」を納入するのが、受託業務最後の仕事となりました。この装置は複数の新聞社にも採用される運びとなりました。

この間、パチンコ関連では後にベストセラーとなる景品交換システムPOS4号機の「PC-80」や、玉箱を置くだけで「玉箱の底が抜ける」という画期的なアイデア製品の玉計数機「C-10」など次々とオリジナル製品を開発していきます。

こうした動きによって、既存と同様な製品を販売したくないというマース独自の製品開発へのこだわりが評価されるとともに、受託業務の幕を下ろし、すべてのリソースをパチンコ業界へと投入していくことになったのです。